

春風秋霜

江利川毅 県立大理事長



今回は個人的なことを話題にしたい。私は団塊の世代の1期生で、先週、古稀を迎えた。古稀の出典は、中国唐時代の詩人杜甫の漢詩「曲江」の「酒債（酒代の借金）は尋常行く処に有り、人生七十古来稀なり」とある。杜甫は、李白と並ぶ代表的詩人で「詩聖」と呼ばれている。まじめな性格で世渡りが下手で、生涯ほとんど仕官らしい仕官をせず、苦難な放浪生活を送ったといふ。

■「70歳定年」の時代

わが国の平均寿命（2015年）は、男性80・75歳、女性86・99歳であり、男性の8割、女性の9割以上が、70歳を超えることになる。今や70歳を迎える

古希を迎えて

のは普通のことであり、昔の年齢のイメージからすると、0・8掛けしてちょうどよいくらいではないかと思ふ。

シニア活力地域に

る。何か役に立つことに関わって自分の存在意義を確認できると、そこでできればもっと素晴らしい。安倍内閣の掲げる「一億総活躍社会」は、高齢者も含めすべての人が、家庭で、地域で、職場でそれぞれの能力を發揮できる社会を目指すものである。掛け声だけで終わらせてはならない。個人も社会も力を合わせ取り組むべき課題である。

らよい。退職後の生活を生き生きと過すためには、地域社会との関わりの中で自分の役割を確認できることが大事で、それを応援することも企業の役割ではないかと思ふ。

これを読んで、多趣味は必ずしも良いことではないと思ふ、順次趣味を減らし、仕事に集中することにしたい。

「秋の書架亡父（ちち）の背中を見つけたら」
父の新盆の時に作った句で、結果的にいい供養になったと思っている。

■「頑張ろう」団塊

今年1月に日本老年学会・日本老年医学会が「高齢者の区分と定義に関する提言を発表」、現在の高齢者の体力等から、65歳 准高齢者、75～89歳 高齢者、90歳 超高齢者とすることを提案している。

私は、定年は70歳あるいはそれ以上でもよいと思っている。埼玉県立大学の理事をされていらっしゃる方は、希望すれば77歳まで働けるそうです。定年を延ばせないのなら、会社人間が

弟が孔子に、ある国の大宰（首相）が孔子の多能に感嘆し、閣府の大臣官房長に就任して、見るべき文書が極端に増えた。

これでは感性が枯渇してしまっ中央省庁再編で新設された内閣府の大臣官房長に就任して、

団塊の世代はこれまで日本社会をけん引してきたが、徐々に社会のお荷物と見られかねない状況になりつつある。団塊の世代よ、頑張ろうではないか。

年をとっても、持病はあっても、元気に日常生活を送れる、それは誰もが願うところであ

必要性は認めていない。

の主催する大会で、約800句の中から特選に選ばれた。

（次回は5月15日付）

（次回は5月15日付）